

令和元年度第1回「横浜市地域公共交通会議」	
日 時	令和元年8月8日(木) 午後2時～午後3時
開催場所	ヨコハマジャストビル1号館8階1号室
開催形態	公開(傍聴者0人)
議 題	<p>(1) 横浜市からの情報提供</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域交通サポート事業の支援拡充について</li> <li>・地域交通サポート事業取組地区の状況について</li> </ul> <p>(2) ㈱共同からの提案事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小雀地区乗合バス「こすずめ号」の事業計画の変更について</li> </ul>
内 容	<p><b>(1) 横浜市からの情報提供</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域サポート事業の支援拡充について</li> </ul> <p>(事務局) 地域交通サポート事業の支援拡充と取組地区の状況について説明。 (委員一同) 了承。</p> <p><b>(2) ㈱共同からの提案事項</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小雀地区乗合バス「こすずめ号」の事業計画の変更について</li> </ul> <p>(事業者) 小雀地区乗合バス「こすずめ号」の事業計画の変更の趣旨について説明。 (事務局) 小雀地区乗合バス「こすずめ号」の事業計画の変更について補足説明。 (委員) 意見交換会の参加者の内訳、男女比率や年齢層を教えてください。 (事務局) 参加された方は60代以上の方が主で、男女比は半々くらいです。 (委員) 子供運賃について、意見交換会の参加者と一致していないように見えますが、どのように考えていますか。 (事務局) 子供運賃については、アンケート(全世代対象)でも伺っており、アンケート回答者が各世代に分散し、利用者も各世代に分散していることから、各世代からご意見・ご反応をいただいたと受け止めています。 (委員) 減便と値上げの回答傾向より、運賃収入は単純計算すると現行よりも増えます。ワゴン型車両の初期費用の助成と合わせて、収支状況は改善しますか。 (事務局) 改善する見込みです。 (委員) こすずめ号は、運賃以外の収入はありますか。 (事務局) 通常の路線バスのような広告収入等の運賃以外の収入はありません。 (委員) こすずめ号は、暑い日や荒天の日の需要は期待できるため、市営バスのように、こすずめ号も荒天時に増便できると良いのではないのでしょうか。市民感</p>

覚からすると、運賃 400 円は高く、運賃収入以外の収入があれば、収支改善するのではないのでしょうか。

(事務局) 運賃が高くなるとこすずめ号の利用が遠のく懸念もあります。運行ルート沿いには商業施設がないので、大船駅周辺施設から広告収入を得る活動や、未利用者に対して利用につながる取組をしていこうという話を地域と始めたところですが、今後は運行事業者だけでなく、こすずめ号を地域の自分事としてより使っていただこうと、利用促進の取組を地域と共に進めていきます。

(委員) ドライバー不足や働き方改革の流れの中での運行継続は非常に大変だと思います。より地域の利用が広がるサポートをお願いしたいと思います。運賃 400 円でも地域の役に立つ運行であることが実証されれば、他の地域での運行にもつながると思います。

(事務局) こすずめ号がどのように運行されているのか、地域の理解をどのように深めていくのかを考えています。実際の利用につながるような活動を幅広く考えて行っていきたいと思っています。

(委員) 沢山利用されるようになった後に運賃を 300 円に戻すような可能性はありますか。

(事業者) サービス拡充は運賃の値下げだけでなく運行時間帯の拡充も考えられます。高齢者が増えているのに利用者が減っており、バスの宣伝や地域内のコミュニケーションが不足していると感じており、こすずめ号の認知度をあげる取組を考えています。

(委員) 沢山利用すれば運行が持続し、更に利用するとサービス改善が見えてくると利用の動機づけになります。減便と運賃の値上げを繰り返しては、利用者は減る一方で、更なる減便と運賃の値上げにつながるの、同じでは済まないということをして市や地域の方々、私達専門家も含めて考えてもらうことが大事です。

(委員) こすずめ号の認知度が低いことが意外でした。そもそもバスに頼らざるを得ない状況の中で認知度が低いというのは、どういうことでしょうか。

(事務局) こすずめ号は本格運行から 10 年が経過し、地域に馴染みすぎていると感じています。利用者を増やすにはこすずめ号が「地域のバス」という意識を持つことが大事だと感じました。これまで未着手であったこすずめ号の認知度を上げるところに手を加え、地域の方にも取組を進めていただきたいと思います。

(委員) 地域内での認知度をあげるために一番大切なことは、「何もなかったところ

にバスが通るようになった、あのバスは一体何だろう？」ということです。私が住む地区では、バス開通時のお祝いを盛大にやりました。普通は、バス開通に熱心に活動した町内会でお祝いしますが、隣の町内会の方にも是非乗って欲しい、認知して欲しかったので、隣の町内会に広場を借りてお祝いを盛大に行い、認知度をあげました。バス運行の大きな反対意見がでないように、常に心を配りました。運行事業者と市だけでなく、地域で取組、協力できる核になる人が必要です。それぞれの状況に応じて、努力したことが良かったと思います。

(事務局) 小雀町内会では毎月「小雀便り」という町内会報を発行しており、その紙面でお知らせしています。また、こすずめ号のバス停に隣接する扉には「バスの存続にはあなたの利用が決めてです」という利用啓発の標語を貼りだしています。少しずつではありますが、できるところから他地区の事例を参考にした取組を進めていきたいと思っています。

(委員) 各地域で横断的に協力や情報交換を行い、様々な情報が地域の中で広がっていけば良いのではないのでしょうか。高齢者の方は、移動手段としてバスに頼らざるを得ないので、地域の中で横断的な輪を広げながら、せめて地区連合くらいの範囲で情報交換が行えるような体制づくりに整えていくと良いと思います。

(事務局) 意見交換会では、敬老会や民生委員（高齢者の生活支援者）との連携も話題にあがりました。そのような視点でアドバイスをしていきます。

(委員) 運行開始後は自主採算ですが、利用者は減る一方なので、例えば敬老パスを上手に活用することは考えられないのでしょうか。

(事務局) 地域交通サポート事業は、実証運行までの赤字補てんの支援を行いながら、採算が成り立つ路線をつくりあげることが基本にしています。敬老パスの活用の必要性は認識しています。地域交通サポート事業の拡充策が最後ということではなく、財政状況に照らし合わせながら、時代に合わせた制度見直しを行っていきたいと考えています。

以上